

令和 5 年度
学校関係者評価報告書

学校法人常陽学園
専門学校東京医療学院

令和5年度 学校関係者評価報告書

専門学校東京医療学院では、学校法人常陽学園の建学の精神である「人に優しく、社会に貢献できる人材の育成」に基づき、医療専門職に必要な最新の知識と技術を学ぶとともに、障害をもつ人々の気持ちを理解し共感できる、優しい心を持った専門職人材を育てることを教育理念とし、その教育活動及び学校運営について自己点検・自己評価を実施しています。

さらに、当校の卒業生、関連業界及び地域住民等からなる「学校関係者評価委員会」を設置し、自己点検・自己評価の結果に基づいた、客観的で公正な評価を実施し、社会のニーズを踏まえた実践的な職業教育の実現を目指しております。

本校の今後の教育活動及び学校運営の改善にあたり、学校関係者評価委員会でいただいたご意見等を公表することで適切に説明責任を果たすとともに、開かれた学校づくり及び関係業界への理解促進並びに連携協力に真摯に取り組んで参ります。

令和5年度 学校関係者評価委員会

<構成員>

委員長：古田 直弥 氏	【関連業界・卒業生】 理学療法士（社会福祉法人 浅草寺病院）
委員：河部 直紀 氏	【関連業界・卒業生】 理学療法士（有限会社総合リハビリ研究所 地域連携推進室室長・事業推進室室長）
梅村 悟 氏	【関連業界・卒業生】 理学療法士（ライオンズ整形外科クリニック）
高橋 友乃 氏	【地域住民】 医師、高橋医院（中央区八丁堀）院長
学 校 武田 淳史	専門学校東京医療学院 校長
川崎 孝晃	同副校長・理学療法学科 昼間部学科長
小堺 秀樹	同理学療法学科 夜間部学科長
和田 公利	事務長
束原 毅	事務室（書記）

<学校関係者評価委員による評価、意見等>

1. 教育目標及び、重点目標・計画について

(1) 重点目標1

近年、メンタル面、精神的ストレスを抱える学生の割合が増加している。そのため、臨床心理士、精神科医などの専門医による直接的な対応の更なる充実が求められる。

委員からの質問

近年の入学者はあまり勉強が得意でない学生が多いとのことだが、勉強の不得意な生徒への学校の対応はどのようにしているか。

(学校の回答)

国家試験前の昼間部最終学年については、放課後に夜間部の時間(20:00)までの補習や個別指導、また休日の補習を行うなど対応している。一方で担任以外にも、教員個々の負担が大きくなっている。業務の適正化をすすめ教員負担の軽減を図っていきたい。

(2) 重点目標3

学生の実習先に関しては、医療の中で理学療法士として主体的に行動のできる学生を育てることができる学外実習施設を増やしていく必要がある。

委員からの提言

私の勤務先でも臨床実習の指導や新入社員の指導を通じて感じるが、昨今の若者は効率を求める傾向が強いと思われる。ただ、効率よく仕事を終えることは大切だが、ややもすると出来るまで残って頑張るのではなく、出来なくても時間がくれば帰るということ優先するのでは、それはどうなのかと思うこともある。とはいえ、以前のように厳しい指導ではなく時代に合わせてハラスメントにならないよう柔軟にバランスをとる必要を感じている。

2. 教育活動・学修成果について

(1) 教育活動

国の高等教育修学支援制度が始まり、本校にもその制度を利用している学生が多く在学している。この修学支援制度は、経済的余裕のない家庭の子弟に修学の機会を与えるものであるが、毎年収入による家計の経済状況の見直しにより支援が打ち切りになる場合もあるので、学校からも奨学金含め最大限サポートしたい。また、経済的理由でアルバイトを余儀なくされることにより学習時間を取れず、意欲の低い生徒も見られる。このため、1学年次から個別補習などの対応により修学を続けられるようにフォローしている。

(2) 国家試験の合格率

令和5年度は、昼間部夜間部ともに担任教員を中心に休日の補習を増やすなどの対応により、昼間部は前年並みを維持、夜間部は前年度の合格率を上回ることが出来た。

その結果は、夜間部（受験21名 合格20名）、昼間部（受験28名 合格24名）となった。

委員からの提言

国家試験の合格率は、入学者募集にも直結するので、来年度は昼夜の合格率を上回ることが期待したい。

3. 学生の受入れ募集について

令和5年度の入学者は、昼間部が定員1名不足、夜間部は12名の定員割れとなった。

今年度は、夜間部限定の社会人特別入試において入試成績上位者に対し授業料の減免を導入した。同制度を利用して夜間部に8名が入学。今後も継続して取り組み、夜間部の定員充足を目指したい。また、指定校推薦制度の導入を検討し、高校訪問を積極的に行うなど、受験者数の増加を図りたい。

なお、昨年度にご提言いただいた夜間部の名称を「4年制コース（夜間部）」の表記により印象を和らげることを令和6年度より実施した。

委員からの提言

- ・定員充足に向け、高校生に頼るのでなく社会人の入学者を増やすのはどうか。引退した社会人のスポーツ選手のセカンドキャリアとして大変良いと思うので、そこにアピールしてはどうか。

- ・社会人向けの教育訓練給付や、政府の社会人向けリスキリング支援制度など、活用できるものがあれば活用してみてもどうか。

（学校の回答）

新たに体育系大学の卒業生に入学してもらうため、大学訪問を行い、本校入試のPRに取り組んでいる。訪問する大学数をさらに増やして募集を図っていきたい。また、理学療法士推薦制度により、今年度も実習施設から何名か紹介していただいたが、より多くの理学療法士から推薦いただけるように同制度の周知に努めていく。

4. 学生支援について

(1) 当校独自の経済的修学支援制度（表彰制度等）を、より広く周知し経済的に不安を抱える学生が気軽に相談できる体制を構築すると共に、更なる支援策の充実を図る。

(2) 学生加入保険の費用を当校と負担とする他、学校保健安全法に定められた感染症への対策を充実させる。

委員からの提言

成績優秀者への表彰はもちろんだが、成績下位学生は経済的に恵まれない傾向があるのではないかと思うので、経済的に恵まれない学生への独自支援があるとよい。

5. 地域貢献・社会貢献について

東京都中央区の依頼に基づき、区が管轄する審査会に当校の専任教員を派遣している。また、同じく中央区が主催する介護予防事業「通いの場支援事業」にも当校の専任教員が参加している。

委員からの提言

- ・勤務している病院が社会福祉法人ということもあり、定期的に地域住民を集めて健康相談・健康セミナーなどを開催している。御校でも同様の催しを検討してみてはどうか。
- ・地方自治体が実施している地域のお祭りや健康体操を教える催しがある。そのような行事に積極的に参加し、つながりができれば広報活動にも広がると思う。
- ・理学療法士協会でも広報しているが、厚生労働省の「エイジフレンドリー補助金」というものがあり、医師などの専門家による体力チェックや運動指導を導入する中小企業に出る補助金がある。そこに今年度から「転倒防止や腰痛予防のためのスポーツ・運動指導コース」というものが新設され、理学療法士がその指導者の役割を担うことができることになった。私の勤務先でも地域の中小企業に出向いて運動指導などを行っているので、御校でも地域貢献として検討されてはいかがか。
- ・今年 3 月西武ライオンズのライオンズアカデミーで、野球肘健診というものを開催する。そこで理学療法士学生のボランティアを募集したいと考えている。できれば御校学生のご協力をお願いしたいと思っております。よろしくお願いします。

以上